

一億総活躍、教育の強靱化の名のもとに、不登校対策法として、いわゆる（多様な）教育機会確保法案が、議員立法で国会に提出されています。私はこれに反対し、憤慨している者です。

この法案のノリを知ってもらったために紹介するのが、ドラえもん「くさいスイッチ」です。これは自分にとってじゃまな者をスイッチひとつで消すという、藤子・F・不二雄先生らしからぬ、ブラックなひみつ道具で、のび太は、ジャイアンを消し、スネ夫を消し、最後はみんなを消して一人はつちになつてしまふ……というストーリーです。

この法案も仕組みは同じで、自民・公明・文科省が、くさいスイッチをバンバン押しまくり、不登校の子どもを「学校から消す」法案なのです。

もうすでに障害者は普通学校から消えている。よほど根性をいれて普通学校に通おうとしない限り、特別支援学校（昔でいう養護学校）に通うことになりません。不登校対策も、このパリエーションで、不登校児は適応指導教室（教育支援センター）とか不登校特例校に転校・放校させられるのです。不登校の子どもを学校外へと排除し、収容所に入れる。南アフリカ級の不登校隔離政策じゃないですか。

でも、けしからん！と思う人は案外と少なく、不登校なんだから、いじめられっこなんだから、心理的に弱いんだから、転校したほうがその子のためになる。もともと学校行ってないんでしょ、そんな感じなのです。

なんで学校に行きたくないのかを考

## パラ色のひきこもり ⑪ 勝山実

### 不登校対策法

成立が目論まれている「教育機会確保法案」。教育の多様性を奪うものだと勝山さんは断固反対！の立場。

かつやま みのる・1971年生まれ、ひきこもり名人。高校3年で不登校になり、以来ひきこもり生活に。著書に『安心ひきこもりライフ』（太田出版）など。

イラストレーション／もとき理川



えてほしい。子どもの自殺が夏休み明けの9月1日に多いと話題になっていますが、そこでも行かない子どもだけに焦点があたる。自殺するな、がんばって休め（！）と子どもに対しては言うけれど、自殺製造所である学校に対しては何も言わない。

これでは学校の居心地の悪さは強化され、過度な競争、いじめ、体罰は継続し、学校はますます息苦しいところになっていく。

一方、学校以外の学習の場はというと、縁の下の方持ちとして、受け入れ先として、学校の排除・差別を支援することになる。適応指導教室は、学校復帰を目的とするところです。となると、学校と適応指導教室とで、不登校児を投げあうキャッチボールになります。いかなるものでしょうか。

「承知のこととは思いますが、念のため言っておくと、義務教育というのは、子どもにとつては義務ではなく、権利です。親と国に権利を支える義務があるだけで、子どもにとつては「権利教育」なのです。教育を受ける権利を行使する、しないは自由。学校に行く、行かないも完全に自由なのです。

自由と平等がいちばーん。そう考えると自分のやっていることはたんなる反対ではなく、自由と平等のための闘いであると気付きました。ベルサイユのばら」と同じです。40年前のマンガにすでに書いてあります。人間はその指先一本、髪の毛一本にいたるまで、すべて神の下に平等であり、自由であるべきなのだ。by オスカル。異議なし。よっ、オスカル！ 日本一！